

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 港区  
学 校 名 磯路小学校  
学校長名 糸井 利則

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・磯路小学校では、第6学年 55名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

各教科の平均正答率については、国語59%、算数52%、理科50%となり、いずれも大阪市平均および全国平均を下回る結果となった。平均無解答率については、国語3.9%、算数3.1%、理科3.8%であり、全国平均（国語3.3%、算数3.6%、理科2.8%）と比較して概ね同程度であった。

質問紙調査においては、「ICT機器の使用」に関する項目で肯定的な回答が多く見られ、児童がPCやタブレットを学習に活用する意識が定着していることがうかがえる。また、「自分にはよいところがある」など自己肯定感に関する項目についても、全国平均と同程度の結果であった。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

### 【国語】

すべての領域において大阪市平均および全国平均を下回る結果となった。特に「書くこと」では、文章の構成を説明したり、根拠をもとに自分の考えを表現したりする問題での正答率が低かった。一方で、語句や漢字の知識を問う基礎的な問題では比較的良好な傾向が見られた。

### 【算数】

全体的に大阪市平均および全国平均を下回る結果となったが、計算や単純な操作に関する問題は一定の成果が見られた。反面、「複数の条件をもとに考えをまとめる」「データをもとに自分の考えを説明する」といった思考力・判断力・表現力を問う問題で課題が見られた。

### 【理科】

大阪市平均および全国平均を下回る結果となった。観察や実験の結果から規則性を見いだす問題、結果を説明する問題などで正答率が低かった。知識の定着だけでなく、学習した内容をもとに自ら考察し説明する力を育てる必要がある。

質問調査より

「ICT機器の使用」に関して肯定的な回答が多く、授業内での活用が定着していることがうかがえる。一方で、「自分の考えをもとに友だちと意見を交流する」「学習で得たことを生活に生かす」といった項目では課題が見られ、学習内容の活用場面を意識させる取組の必要性が示唆された。また、「授業でわからないことがあるとき、どうすればよいか考える」といった主体的な学びに関する項目の結果からも、自ら学ぼうとする意欲をさらに育成していく必要があるといえる。

## 今後の取組(アクションプラン)

磯路小学校では、今年度の研究教科を社会とし、研究テーマ「対話を通して課題解決する力を育てる～楽しく学ぶ社会科授業デザイン～」のもとに研究を進めている。児童が課題に主体的に向き合い、友だちと意見を交わしながら考えを深める授業を目指し、「対話」を中心とした学習活動の充実を図っている。授業では、資料の読み取りや根拠をもとに自分の考えをもつ活動を取り入れ、互いの意見を比較・関連づけながら新たな考えを形成できるよう支援している。

今後は、学習のねらいを明確にし、児童が見通しをもって学びを進められるよう単元構成を工夫とともに、ICT機器を効果的に活用しながら情報を整理・共有する力の育成を図っていく。

また、社会科で育てた「課題を発見し、対話を通して解決策を見いだす力」を他教科にも広げ、全教育活動を通して児童の思考力・判断力・表現力の育成を目指す。

---

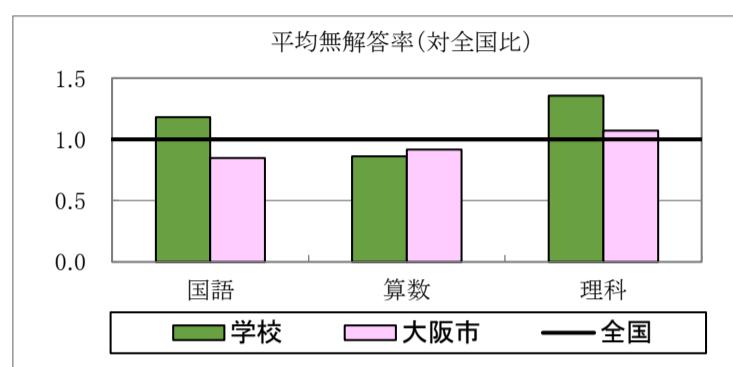
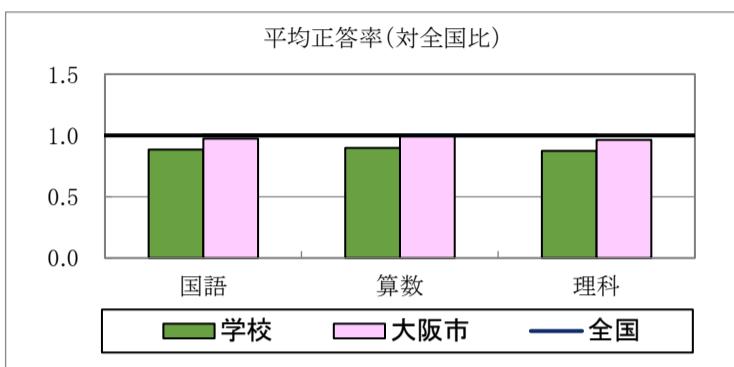
## 【 全体の概要 】

### 平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	59	52	50
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

### 平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	3.9	3.1	3.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

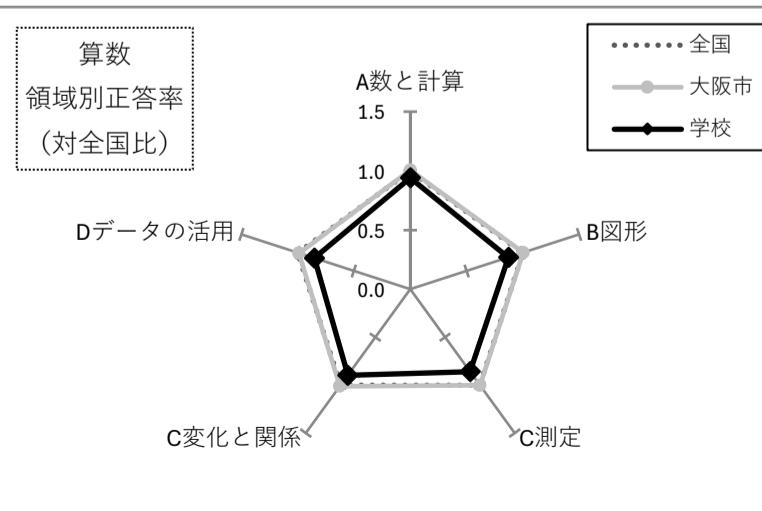
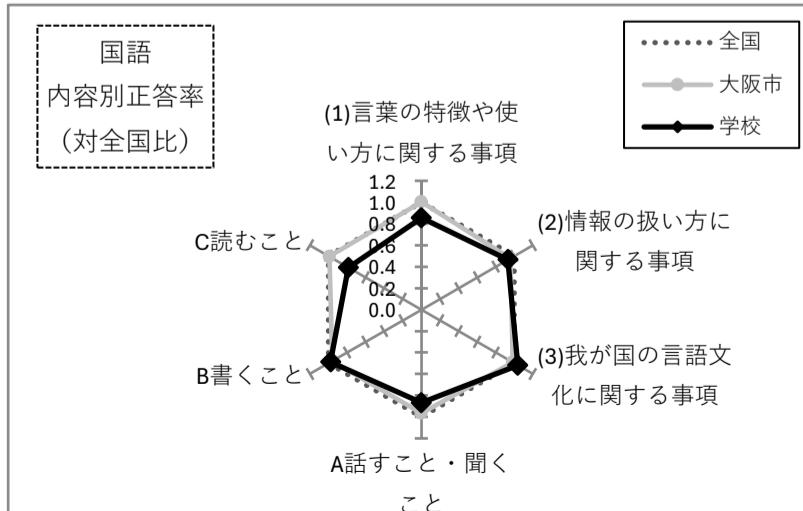
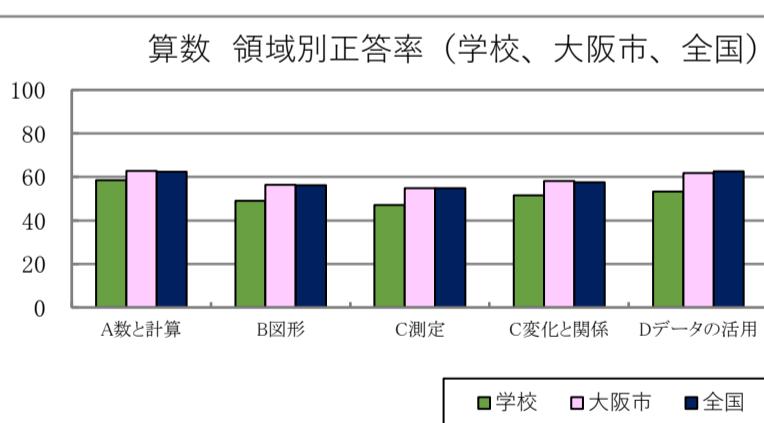
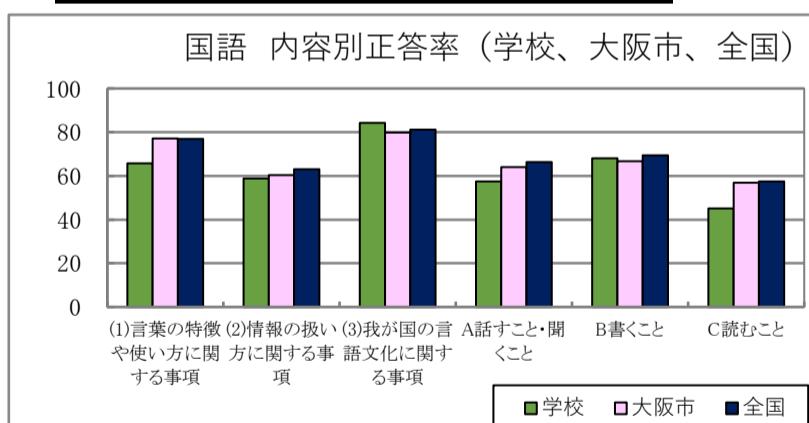


## 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	65.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	58.8	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	84.3	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	57.5	64.0	66.3
B 書くこと	3	68.0	66.7	69.5
C 読むこと	4	45.1	56.9	57.5

## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	58.6	62.7	62.3
B 図形	4	49.0	56.4	56.2
C 測定	2	47.1	54.9	54.8
C 変化と関係	3	51.6	58.2	57.5
D データの活用	5	53.3	61.9	62.6



## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
「エネルギー」を 柱とする領域 A	4	37.7	42.7	46.7
「粒子」を 柱とする領域 B	6	47.7	49.5	51.4
「生命」を 柱とする領域 A	4	40.7	51.4	52.0
「地球」を 柱とする領域 B	6	58.8	63.8	66.7

